

(様式) 府立松原高等学校 「学校運営協議会」 報告書 (第1回)

日 時	平成30年6月30日 (土) 14:30~17:00			
出席者	運営協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等
	房 本 晃	社会福祉法人 バオバブ福祉会理事	島 岡 律 子	教頭
	菊 地 栄 治	早稲田大学教授	木 村 悠	首席
	前 崎 卓	松原市立 松原第三中学校長	伊 藤 あ ゆ	首席
	野崎 和枝	本校PTA会長	山 口 裕 子	人権教育主担
	教職員等			
	林 茂樹 (摂南大学特任準教授) 林 知彦 (1 学年代表) 島越 伸明 (1 学年) 田ノ上 優光 (1 学年) 周田 隆徳 (教務代表) 大橋 佑哉 (2 学年) 南岡 靖之 (2 学年) 深井 恵介 (3 学年代表) 宮本 陸 (3 学年)			
おもな テーマ	1) 本年度「学校経営計画」「学校方針」 2) 今年度の重点項目 3) 運営協議会委員からの感想・提言			
協議内容 の概略	①学校運営協議会 実施要項、平成31年度使用教科書用図書選定について ②本年度の「学校経営計画」の説明等 (校長) ③学校方針の説明と重点目標について (伊藤首席) ④「深い学びプロジェクト」について (深井教諭) ・主体的で対話的な深い学びは、社会からの発注を受けている。 ・教科指導だけでなく生活指導でも、逆向き設計。 ⑤「高等学校における通級による指導」について (伊藤首席) ⑥地域連携について (木村首席) ⑦協議委員からのご意見、提言			
提 言 内 容・改善 方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・②については経済産業省の2008年の提言を受けている。どうやって松高らしい学びにするか。</li> <li>・「逆向き設計」で「こういう生徒」を勝手に決めてしまうのは両刃の剣。期待を裏切られることと、予定調和を捨てることに勇気を。</li> <li>・通級については「発達障がいのある生徒」のみを対象としていくのか。</li> <li>・「発達障がい」のカテゴライズは心理、発達、医療モデル。その言葉の文脈に意識的になってほしい。「生産性があるって、価値を生み出す子どもが良い」ということを再生産していないか。それをひっくり返す取り組みに、どこまでなるのか。</li> <li>・高校の通級は、中学校の教員がもっているイメージと違っている。圧倒的な数の子どもが義務制で通級を経ているといわれているが、松原ではさほど多くない。</li> <li>・地域のネットワークの再構築は、1年生への入学の動機のみきとりを通して深められる。例えば、自転車で通えるということは、つまり交通費が負担になるから、という場合がある。深いところを見て返していく。</li> <li>・高校の自主活動でつながりたいと思っている中学生がいる。それについても聞いてみては。</li> <li>・直接出会うというのはすごいチカラ。中学校訪問は、受験者数を増やすことが目的ではなく、自らの活動を伝えることを大切に。</li> </ul>			